

メーキャップとスキンケアに関する意識の男女比較

— 自由記述による検討 —

○織田弥生¹・上市秀雄²・菊地賢一¹ (非会員)

(¹東邦大学理学部・²筑波大学システム情報系)

キーワード：スキンケア意識，メーキャップ意識，性差，

Gender comparison of skincare and makeup consciousness: Analysis of free descriptions

Yayoi ODA¹, Hideo UEICHI² and Kenichi KIKUCHI^{1, #}

(¹ Faculty of Science, Toho University, ² Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba)

Key Words: skincare consciousness, makeup consciousness, gender differences

目的

広義の“化粧”にはメーキャップ，スキンケア，フレグランス等が含まれるが，化粧意識に関する先行研究では“化粧”という用語を用いて，メーキャップを念頭に置いた研究が行われてきたと思われる。しかしスキンケアもまた顔を対象とした化粧行動として広く行われており，メーキャップとスキンケアを分けた検討も必要であると考え。また，先行研究の多くは女性のみを調査対象としていたが，経済産業省の化学工業統計年報によれば2006年から2011年の5年間で男性皮膚用化粧品の出荷個数は約1.6倍に増加しており（皮膚用化粧品全体では約1.2倍），男性のスキンケア行動は増えていると考えられる。このような状況から，女性だけでなく男性の化粧意識をあわせて調べることは興味深いと考える。そこで本研究では，メーキャップとスキンケアの両方に関して男女がどのような考えを持っているかを調査・比較する。調査は自由記述方式で行い回答内容を分類・比較する。

方法

調査対象者 関東近郊の大学生166名（男性91名，女性75名，年齢18歳-30歳， $M = 20.14$ ， $SD = 1.39$ ）

質問紙 “自分がメーキャップすること” “自分がスキンケアすること”について“したほうがよい”，“どちらともいえない”，“しないほうがよい”のいずれかで回答を求め，なぜそのように思うのか理由・意見・考えを自由記述してもらった。

方法 調査用紙を授業の最後に配布し，その場で回収した。

解析 メーキャップ・スキンケアについて，した方がよいか否かの回答の割合を男女別に算出した。次に自由記述の回答について，1つの回答に複数の内容が含まれている場合にはそれらを内容毎に分割した（分割したものを“記述”とする）。これらの記述について，類似したものを集めてグループを作成し，そのグループを表す文章を作成した。各グループに該当する記述の数を数え，記述数全体に占める％を算出した。

結果

メーキャップに関しては，女性は“したほうがよい”63%， “どちらともいえない”29%， “しないほうがよい”8%， 男性は“したほうがよい”0%， “どちらともいえない”14%， “しないほうがよい”86%であった。スキンケアに関しては，女性は“したほうがよい”93%， “どちらともいえない”7%， “しないほうがよい”0%， 男性は“したほうがよい”71%， “どちらともいえない”23%， “しないほうがよい”6%であった。表1に自分のメーキャップに関する男女の意識と記述全体に対するパーセンテージ，表2に自分のスキンケアに関する男女の意識と記述全体に対するパーセンテージを示す。

考察

メーキャップに関する女性の意識に関しては，先行研究（笹山・永松，1999；山本・加藤，1991）と類似したものが上位を占めた。一方男性は否定的な意見が多く，“しないほうがよい”が86%であることから，男性にメーキャップが浸透してい

ないことが伺える。一方スキンケアに関しては男性では“スキンケアは必要ない”という意見も上位にあがったが，その他は男女とも機能面に関する意識が多く回答された。“したほうがよい”と考える男性も71%にのぼった。また男性においては機能面だけではなく，“印象”，“清潔感”という意識がみられるのが特徴的である。女性は主に自分の肌を美しく健康に保つためにスキンケアをしているが，男性は他者からの評価も意識している可能性がある。今後はこれらの意識を項目にまとめて調査を行い，さらに男女の比較を行う予定である。

表1 自分のメーキャップに関する男女の意識と，記述全体に対するパーセンテージ（上位5位まで）

女性の意識（記述数:138）	％	男性の意識（記述数:118）	％
メーキャップをして周りの人にきれいだと思われたい a	14%	男性はメーキャップすべきでない	25%
メーキャップは肌に悪い	8%	メーキャップをする必要はない	8%
メーキャップは社会的マナー・礼儀であると思う b	7%	メーキャップをしたいと思わない	8%
メーキャップは身だしなみ a	7%	メーキャップは女性がするもの	7%
メーキャップをして顔や体の欠点をカバーしたい a	5%	メーキャップをしてもメリットがない	7%
		メーキャップに興味がない	7%

a)笹山・永松(1999)に類似項目あり b)山本・加藤(1991)に類似項目あり

表2 自分のスキンケアに関する男女の意識と，記述全体に対するパーセンテージ（上位5位まで）

女性の意識（記述数:113）	％	男性の意識（記述数:123）	％
スキンケアは肌の乾燥を防ぐ	21%	スキンケアは肌の乾燥を防ぐ	11%
スキンケアによって将来も肌を美しく健康に保つことができる	15%	スキンケアは必要ない	7%
スキンケアは肌をきれいに保つ	10%	スキンケアはニキビを予防する	7%
スキンケアはニキビを予防する	8%	スキンケアは他者からの印象を良くする	7%
スキンケアは肌の汚れを落とす	6%	スキンケアは肌をきれいに保つ	5%
		スキンケアをすると清潔感がある	5%

引用文献

笹山郁生・永松亜矢（1999）．化粧行動を規定する諸要因の関連性の検討．福岡教育大学紀要．第4分冊，教職科編，48，241-251．
山本純子・加藤雪枝（1991）．化粧に対する意識と被服行動．椋山女学園大学研究論集，22（1），251-264．